

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



No. 11
2021.5.1

ごあいさつ

副院長 原嶋 弥生

日頃より、当院と連携して頂いております各施設の先生方をはじめ看護師さんや事務員の方々、大変お世話になっておりますことにお礼を申し上げます。

当院は、特定機能病院、急性期病院としての使命を果たせるよう、日々、医療の質・看護の質向上に努めております。当院で急性期治療が終わった患者さんを地域へスムーズに連携するためには、施設間に強い絆を作ることが重要であります。そして、その連携の中心的役割を担う存在が看護職であると考えております。地域の中で様々な場で活躍する看護職同士が繋がり連携することは、看護の質向上だけでなく、他職種を含めた連携も促進され、地域全体のケアの質向上が期待されます。今後、看看連携の体制構築に取り組み、地域の皆様と顔の見える関係を築いていきたいと考えておりますので、更なる連携をお願い申し上げます。

また、2021年2月より、病棟看護師による転院調整を開始いたしました。不慣れであり、皆様にご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、その役割を果たしていけるよう努力を続ける所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

※原嶋 弥生副院長（写真左から2人目）と看護部副部長3名

Contents

ご紹介	2
皮膚科アトピー性皮膚炎診療	
診療科のご紹介	3
腎臓内科	
放射線腫瘍科	
医師のご紹介	4
感染症科・感染制御科	
泌尿器科	
リハビリテーション科	
病院長からのエール	
看護部から	6
カルナ（インターネット予約システム）のご利用	6
提携医療機関から	
旭ヶ丘病院	7
のぐち内科クリニック	7

皮膚科アトピー性皮膚炎診療のご紹介

アトピー性皮膚炎では、フィラグリン等のバリア機能を司る分子の遺伝子変異に起因する表皮のバリア機能異常を背景に、外界から種々の刺激が加わり、2型炎症を生じます。IL-4やIL-13などの2型サイトカインにより、バリア分子の発現が低下し、さらにバリア機能が低下し、炎症が強くなるという悪循環となります。その治療は保湿剤によりバリア機能を高め、抗炎症外用薬で炎症を抑制することが基本です。これらの外用療法を十分に行っても病勢を十分にコントロールできない症例では、光線療法や全身療法を併用します(図1)。保湿剤としてはへ

アトピー性皮膚炎の診断治療アルゴリズム

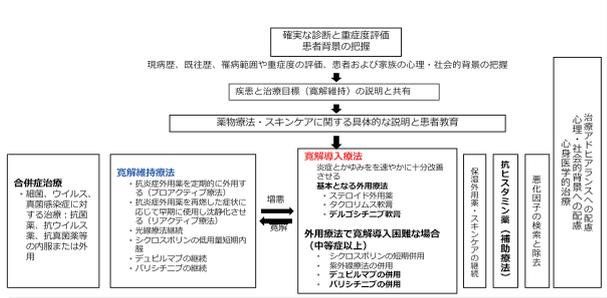


図1) アトピー性皮膚炎の診断治療アルゴリズム < Miyano K, Tsunemi Y: Current treatments for atopic dermatitis in Japan. J Dermatol 2021; 48: 140-151 より引用一部改変 >

パリン類似物質の効果が高く頻用されています。抗炎症外用薬として従来ステロイド外用薬とタクロリムス軟膏がありました。第3の抗炎症外用薬としてヤヌスキナーゼ(JAK)阻害薬のデルゴシチニブ軟膏が加わりました。全身療法としては、シクロスポリンが使われてきましたが、抗IL-4受容体αサブユニット抗体でIL-4/IL-13シグナルを遮断するデュピルマブが登場し、さらにJAK1とJAK2を阻害するバリシチニブが加わりました。今後もホスホジエステラーゼ(PDE)4阻害薬であるシファミラストの外用薬や抗IL-13抗体であるトラロキヌマブ、抗IL-31受容体A抗体であるネモリズマブなど、次々と新薬が登場してきます。これらにより、アトピー性皮膚炎においても、他領域で提唱されているminimal disease activity、つまり非常に高い寛解状態を目指してtight controlを行うtreat to targetが現実のものとなりました。

患者さんにこのような目標を達成してもらうためには新薬も含めた各薬剤の特性を理解し、患者さんに適切な治療法を提案し、全身療法も含め適材適所で使いこなしていくことが医療者の責務です。そこで病診・病病連携が重要になります(図2)。全ての施設で全ての治療ができるわけではありませんが、連携することにより、全ての患者さんに全選択肢が提供できるようになります。埼玉医科大学病院

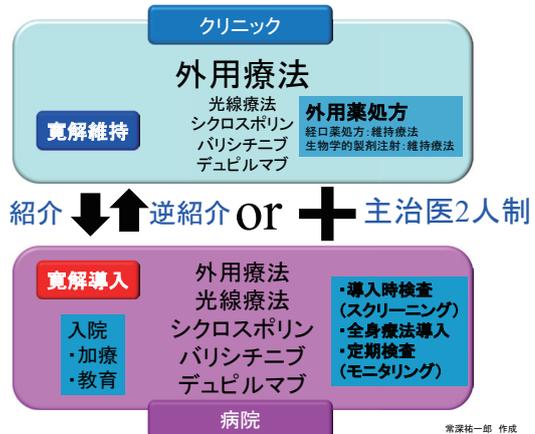


図2) 地域連携の役割分担

皮膚科ではアトピー性皮膚炎患者さんに対して全ての治療選択肢を提供できる体制を整えています。教育入院を含めた入院加療も可能です。連携の方法は、地域の先生方から当院にご紹介いただき、寛解導入後は逆紹介させていただき、先生方の施設で寛解維持を行っていただく紹介・逆紹介や、全身療法を中心に当院に定期通院いただきながらも先生方のところにも通院を続けてもらい外用療法のご指導いただくといった主治医二人制もあります。ぜひ地域で連携して、地域全体のアトピー性皮膚炎患者さんに満足いただける診療を提供したいと考えています。

ご紹介いただく際、基本は全ての曜日で初診を受け付けておりますが、アトピー性皮膚炎は常深、宮野、中村が中心となって診療しています。以下の時間帯へご紹介いただけますと幸いです。
 常深祐一郎(文責):[初診]第1,3,5火曜日の午前、
 [専門外来]毎週火曜日 14-16時
 宮野恭平:[初診]毎週金曜日午前
 中村晃一郎:[初診]毎週木曜日午前

皮膚科 常深 祐一郎
 外来☎: 049-276-1292



左から 常深、中村、宮野

● **腎臓内科 講師 友利 浩司 (トモリ コウジ)**

腎臓内科では、「軽微な検尿異常から腎不全まで」を掲げて全ての慢性腎臓病（CKD）ステージの患者さんを診療の対象としています。具体的には、1) 血尿、蛋白尿、腎機能低下の原因精査と治療、2) 電解質異常や治療抵抗性高血圧の治療、3) 腎炎症候群・ネフローゼ症候群の診断と治療、4) CKDの進展抑制を目的とした治療、5) 腎代替療法（透析や腎移植）の導入・維持管理と各種合併症治療などを行っています。腎疾患の疑いのある患者さんがいらっしゃいましたら、初診外来を月曜日から金曜日まで開設していますので、是非、ご紹介くださ

い。緊急性のある患者さんは、曜日・時間を問わず対応していますので、下記連絡先までご連絡ください。また、当科では、「バスキュラーアクセス外来（月・水午前）」と「腎代替療法選択外来（土曜日午前）」という2つの専門外来を開設しています。アクセス外来では、専門医が血液透析患者さんのバスキュラーアクセスのトラブルに幅広く対応しています。「腎代替療法選択外来」では、担当医と看護師が、患者さんの腎代替療法の治療選択をサポートいたしますので、お気軽にご相談ください。



診療部長のご挨拶

当教室では、かかりつけ医の先生方とCKD患者さんに特化した病診連携体制を構築するため、CKD患者紹介・逆紹介用の連携パスの運用を進めております。近隣医師会の先生方のご理解・ご協力のもとで、順次、各医師会ホームページから自由にダウンロードできるようにしてまいります。その際は、ぜひご利用いただければ幸いです。

腎臓内科 診療部長 岡田 浩一
 アクセス外来担当 近藤 立雄
 腎代替療法選択外来担当 友利 浩司
 外来☎：049-276-1612
 FAX：049-295-7338

診療科のご紹介

● **放射線腫瘍科 講師 関 智史 (セキ サトシ)**

埼玉医科大学病院放射線腫瘍科は、リニアックとよばれる装置を用いて前立腺癌、肺癌、乳癌などの各種固形悪性腫瘍に対する放射線治療を実施することを主な業務としています。

放射線治療は患者さんへの侵襲も少なく、通院が可能であれば入院せず外来での治療も可能で、根治的な治療から緩和的な治療まで全身のさまざまな臓器に発生する固形悪性腫瘍に対して幅広い適応を有しています。

また、ケロイドや甲状腺眼症などの一部良性疾患に対する放射線治療も実施しています。

Stereotactic RadioTherapy) や、前立腺癌などに対する強度変調放射線治療 (IMRT: Intensity Modulated RadioTherapy) といった高精度外部放射線治療も実施しています。これにより、より高い精度の治療をより少ない侵襲で実施することが可能となります。このような高精度の治療を実施するため、放射線治療における医学物理をもっぱら担当する医学物理士を1名むかえ、医師、技師、看護師と一丸となってより良い治療をおこなえるよう日々努めております。

根治照射から緩和照射まで、放射線治療について相談を希望されることがございましたらお気軽にご紹介ください。

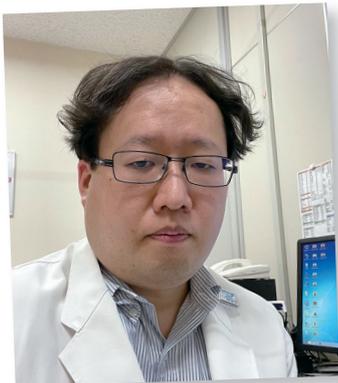
当院では通常の3次元照射のほかに、頭部の定位放射線治療 (SRT :

外来担当医のご挨拶

当院放射線腫瘍科は放射線治療を専門に担当する常勤医2名、非常勤医1名の勤務体制で、月曜日から金曜日まで平日毎日放射線治療を実施しております。

ご紹介いただいた患者さんにできるだけ速やかに治療を開始できるよう努めておりますので、お気軽にご相談ください。

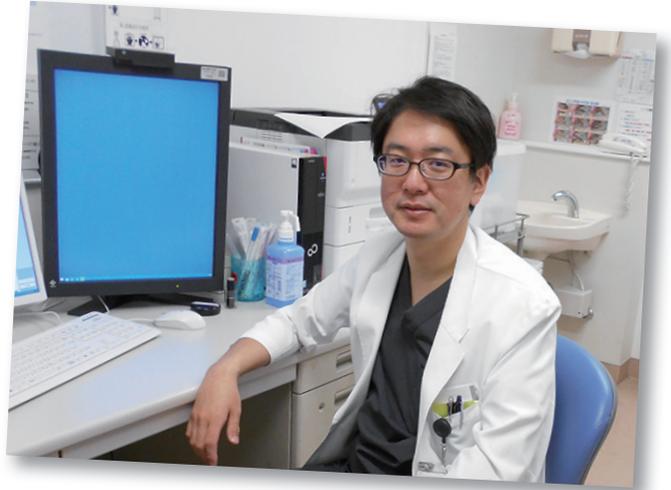
放射線腫瘍科 関 智史
 外来☎：049-276-1298



● **感染症科・感染制御科 准教授 樽本 憲人 (タルモト ノリヒト)**

当院では、新型コロナウイルス感染症に対して感染症科・感染制御科が中心となって対応しておりますが、外来では HIV や結核を中心に診療をおこなっております。当院はエイズ診療拠点病院の1つとして指定されており、埼玉県西部地域にお住まいの患者さんを中心に、現在 100 名近い患者さんが当院に通院されておられます。HIV 診療において重要なのは、感染判明時の不安に対する精神的なサポートおよび確実な内服履行のサポートですが、当院では HIV サポートチームで対応しています。チームの看護師、薬剤師、臨床検査技師、ソーシャルワーカーが、それぞれの専門性を生かして患者のケアにあたると同時に、2か月に1回程度、カンファランスを実施し、診療の質の向上に努めております。また、近隣のご施設からは、新規患者をご紹介いただくほか、針刺しなどの曝露により HIV 罹患のリスクが危惧される医療従事者へのサポートを、院内感染対策室とタイアップして実施しております。梅毒など

性感染症と診断された際には、HIV スクリーニング検査を積極的に実施頂き、ご紹介いただけましたら幸いです。

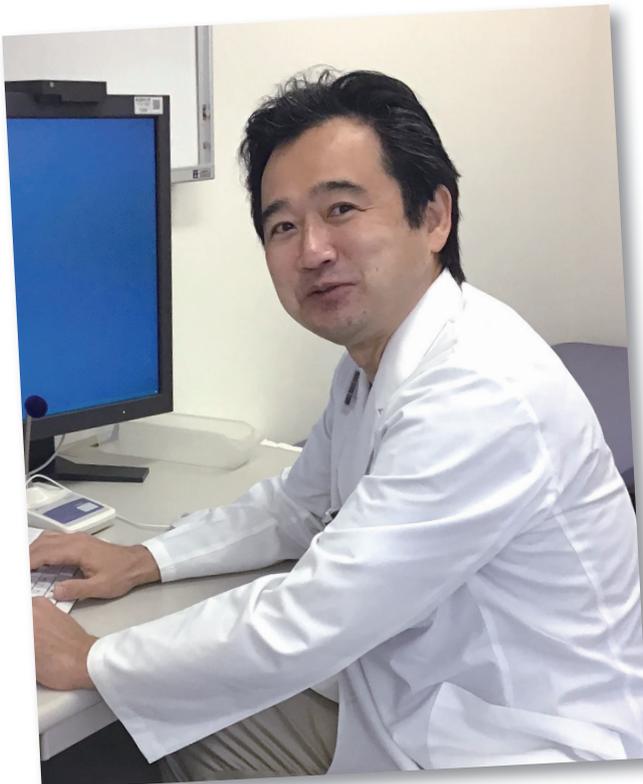


医師のご紹介

● **泌尿器科 准教授 篠島 利明 (シノジマ トシアキ)**

トイレにかかわるトラブルの中でも畜尿障害（おしっこが近い、漏れてしまう）の診療は奥が深く、薬物治療が著効する患者さんがいる一方で、満足していただく結果が得られないこともまれでは

ありません。難治性の頻尿・尿失禁に対しては、究極の鍼灸治療ともいえる仙骨電気刺激療法（S 2 仙骨孔に電極を留置して臀部皮下に刺激装置を埋め込む方法）やボツリヌス毒素膀胱壁注入療法が、括約筋障害による尿失禁に対しては人口尿道括約筋手術（シリコン製の人工括約筋とコントロールスイッチを尿道や陰嚢に埋め込む方法）が有効となる場合があります。また高齢者に多い夜間頻尿は、夜間多尿や畜尿障害に加えて睡眠障害といった複合的な要因が関与しており、夜トイレの回数を減らすことは決して簡単ではありません。泌尿器科にかかっているけれども良くならない！というお叱りを受けることも多いですが、まずは患者さんの訴えに真摯に耳を傾けて、個々の患者さんに応じた解決方法を模索しております。トイレのトラブルがなかなか良くならない患者さんいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただければ幸いです。



● **リハビリテーション科 教授 篠田 裕介 (シノダ ユウスケ)**

2021年1月1日付で、埼玉医科大学病院リハビリテーション科教授を拝命いたしました。私は1998年に東京大学を卒業し、東京大学整形外科学教室に入局しました。2年目に癌研究会附属病院整形外科で研修したことを契機として、骨軟部腫瘍(肉腫や良性骨軟部腫瘍)を専門として研鑽を積んで参りました。その後2012年に東大病院骨転移キャンサーボードを立ち上げてからは、東大で骨転移と診断された患者を全員紹介していただくシステムを作り、がん患者の運動器管理、特に骨転移のマネジメントを専門としております。その流れもあり2014年よりリハビリテーション科に転向いたしました。埼玉医科大学病院においても、通常診療の他、緩和医療科や、各科とのがんのリハビリテーションカンファレンスに参加させていただき、少しずつですが、がん診療に関わらせていただいております。

今後、高齢化が進むと、がん患者を含め、リハビリテーション治療の需要がますます増えていくと予想されます。各診療科とのコミュニケーションを大事にしなが、皆様とともに患者さんを happy に

することができるよう、微力ながら精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



医師のご紹介

● **病院長からのエール**

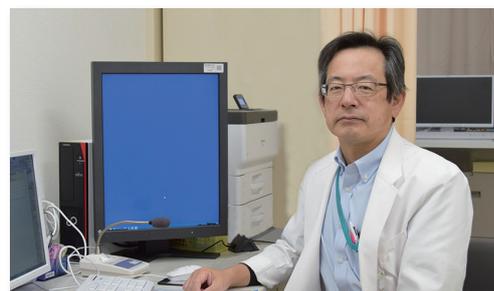
樽本憲人先生は以前から当院における感染症関連業務で活躍してきましたが、昨年来のCOVID-19感染症においては、患者さんの診療は勿論のこと、病院全体における感染制御や対策において、まさに当院の中心的存在としてなくてはならない先生です。樽本先生は常に温厚で医療スタッフの信頼も厚く、当院において今後益々期待される医師のひとりです。

感染症指定病院である当院においては、樽本先生のリーダーシップの元、今後もしっかりとした感染対策を行っていきますので、今後ともよろしくお願い致します。

篠島利明先生は、泌尿器科領域の中でも尿に関する障害や症状の患者さんの診療を専門とされており、患者さんからも高い信頼を得ています。同時に、泌尿器科手術にも精通しており多くの手術も手掛けています。尿にまつわる症状を持っておられる方は非常に多いと思いますが、患者さんの訴えに真摯に耳を傾けて診療に当たられておりますので、是非篠

島先生の外来受診をして頂ければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

篠田裕介先生は本年1月より当院に赴任されました。リハビリテーションの必要性、重要性は高齢化が進むと今後一層増してくるものと考えられており、当院においても例外ではありません。篠田先生はがん患者さんのマネジメントや整形外科領域など、リハビリテーション以外の診療経験も豊富であり、既に当院においても欠かせない存在です。今後益々各診療科との連携を強化し、患者さんのために貢献されるものと期待されます。今後ともよろしくお願い致します。



● 看護部から

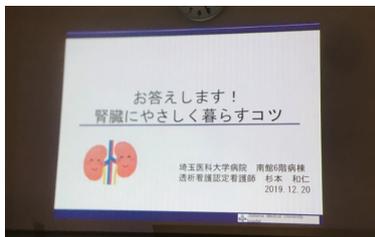
「その人らしく生活できる支援を目指して」

連携施設の皆様こんにちは。透析看護認定看護師の杉本と申します。

腎臓内科外来では、慢性腎臓病（CKD）を抱える人々の生きる力を引き出し、その人らしく生活できるよう支援することを目指しています。

CKD 患者さんは長い経過を辿ります。当院では、保存期から多職種（医師、看護師、栄養士、薬剤師など）による支援を行っており、CKD Stage3以降になると腎臓専門医による「腎臓内科外来」での診察が開始され、必要に応じて多職種による個別支援を行います。また、月1回土曜日に糖尿病早期腎症の患者さんを対象とした「糖尿病性腎症予防外来」も開設しています。

その他に、腎臓病教室による集団教育も行い、患者さんのニーズに合った情報提供をしています。



(腎臓病教室のスライド写真)

保存期からの支援を経てCKD Stage4以降になると毎週火曜日と土曜日に開設された「療法選択外来」で腎代替療法選択支援を行っています。「療法選択外来」では、患者さんにとって最良な腎代替療法を患者さんと共に考えること（SDM）を大切にしています。



(療法選択外来の様子)

CKD 対策は、CKD 病診連携が重要です。当院では、地域連携に力を入れ、病院完結型ではなく地域完結型の体制を構築し、今後も連携施設の皆様と協働してCKDに立ち向かいたいと考えています。

各種外来受診をご希望される患者さんがいましたら、腎臓内科外来（049-276-2034）にご相談ください。

透析看護認定看護師 杉本和仁

カルナ（インターネット予約システム）の利用

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ります。

提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード
<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付
 ※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

新規カルナ登録医療機関 (R2.11 ~ R3.3)			
川越西眼科	埼玉県川越市	院長	本間 理加
若葉・さくらいクリニック	埼玉県鶴ヶ島市	院長	櫻井 裕
ひろせクリニック	埼玉県川越市	理事長	廣瀬 哲也
とだ小林医院	埼玉県戸田市	理事長・院長	小林 洋一

提携医療機関から

旭ヶ丘病院

当院は日高市の東部に位置しています。一般 19 床・地域包括ケア 26 床・回復期 37 床・療養 60 床を有しております。さらに訪問看護・ケアプランセンター及び介護医療院 100 床を運営しています。地域医療機関とのパイプ的役割を担う病院であると認識しています。急性期医療を終えた患者様を受け入れ継続的に治療やリハビリをして在宅医療につなげる一方、専門治療が必要な患者様を急性期病院へ紹介させていただいております。

カルナシステムは診療中に患者様と相談しながらその場で予約ができスムーズに紹介できるので活用させていただいており、患者様にも好評です。今後地域の皆様に頼られる病院を目指して職員一同努めてまいります。

病院長：佐嶋 健一



医療機関情報

診療科目：内科 / 消化器内科 / 循環器内科 / 糖尿病・内分泌内科 / 呼吸器内科 / 脳神経外科 / 整形外科 / 外科 / 婦人科 / 耳鼻いんこう科 / 小児科 / 皮膚科 / リハビリテーション科 / 放射線科

診療時間：平日

午前 9:00 ~ 12:00

午後 14:00 ~ 17:00

小児科 午前 9:00 ~ 12:00

午後 14:00 ~ 17:30

土曜

9:00 ~ 12:00

休診日：日曜・祝日 年末年始

ホームページ：<https://sekijinkai.or.jp/>



のぐち内科クリニック

2017年6月に鶴ヶ島市脚折町に開院しました。関越自動車鶴ヶ島ICから2分、東武東上線坂戸駅か若葉駅から約2キロの所に位置しアクセスしやすい場所です。糖尿病や高血圧症、肥満症、甲状腺疾患などの内分泌疾患、生活習慣病、その他の内科疾患、健康診断、など地域のニーズに見合った医療サービスを提供しています。埼玉医科大学の‘your happiness is our happiness’という理念には共感しており、当院でも大切に共有したいと思っています。カルナシステムの利用により患者紹介がスムーズになり、外来の待ち時間も短縮されるため、患者様から満足しましたとご評価をいただいております。今後は検査などの依頼なども含めた包括的な医療連携を一緒に築いていきたいと思っております。

院長：野口 雄一



医療機関情報

診療科目：内科 / 糖尿病内科 / 消化器内科

診療時間：月曜日～金曜日

午前 9:00 ~ 12:30

午後 15:00 ~ 19:00

土曜日

9:00 ~ 13:00

休診日：水曜日・日曜日・祝日

ホームページ：noguchi-naika.com



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

高い倫理観と人間性の涵養
国際水準の医学・医療の実践
社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199
地域医療連携室（カルナ・FAX 紹介）：049-276-1876
番号案内：049-276-1111

医療福祉相談室（退院調整）：049-276-2119
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（11号）

発行：埼玉医科大学病院
発行責任者：篠塚 望
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者：池園 哲郎・中里 良彦
電話：049-276-1876 地域医療連携室
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日：2021年5月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。